

市民生活分野

平成25年度の市税等収納率

市税収納率は前年度対比1.1ポイント増の96パーセントとなり、多摩26市における順位は前年度の21位から18位となりました。国民健康保険税の収納率は前年度対比3.8ポイント増の74.4パーセントとなり、多摩26市における順位は前年度の20位から17位となりました。今後も徴収対策の一層の推進を図り、収納率向上の維持に努めていきます。

環境・安全分野

空き家対策

当市において平成25年度に実施した「空き家等の実態把握基礎調査」の結果では、561件の空き家および管理不全家屋が存在し、そのうち126件が適切な管理がされていません。一方、7月29日に発表された総務省による「住宅・土地統計調査」の速報値では、東京における空き家率は、11.1パーセントとなっており、当市の「空き家」と「空き室」の合計は約7千件程度と考えられます。空き家問題を地域の住環境全体の居住性や資産価値を維持向上させるための住環境マネジメントの仕組みづくりとして取り組んでいきたいと考えております。

健康福祉分野

地域密着型サービスの整備

9月から、「社会福祉法人白十字会」により定期巡回・随時対応型訪問介護看護の事業所が開設されます。日中・夜間を通じて、定期的な巡回と随時の対応・訪問により介護・看護のサービスを提供するサービスであり、地域包括ケアシステムの構築のための重要な役割を果たし、日常生活圏域での介護サービスの一層の充実が図れるものと考えています。

子育て分野

東村山市子ども・子育て会議の進捗

子ども・子育て会議については6月30日に第3回会議、7月28日に第4回会議を開き、計画期間における利用見込量とそのニーズに応えるための「確保の方策」についてご議論いただき、これを確定しました。小規模保育施設の開設や園舎の増改築等により、合計で97名程度の定員拡大を行うことで量の見込みへの対応を図っていきます。

資源循環分野

家庭から排出される、ごみ・資源物の出し方の変更

10月から、ごみ・資源物の出し方を全品目戸別収集に切り替えます。さまざまな手法を用いて、広く市民の皆さまに周知を図り、スムーズに収集移行できるように努めていきます。

秋水園リサイクルセンターについて

リサイクルセンターについては、今年6月末に竣工し、また管理棟の建設については、6月25日に市と株式会社くりいくの破産管財人ならびに保険会社と出来高について全体の8.6パーセントということで確認合意に至り、履行保証金1千118万円、出来高を除いた前渡金3千723万7千511円を受領しました。これを受け、早期に工事再開できるよう現在準備を進めています。

都市整備分野

みちの愛称と東村山50景の選定

市制施行50周年を迎え、新たに4路線の道路に愛称名を市民の皆さまより募集しています(※)。また、東村山50景については心を和ませ安らぐことのできる風景や東村山らしさを醸し出す行事の情景など、東村山市を代表する風景を選定しています。

※募集は8月31日に終了しました。

教育分野

東村山市 いじめ防止等のための基本的な方針

平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が可決されたことに伴い、「東村山市 いじめ防止等のための基本的な方針」を策定しました。各学校においても「学校いじめ防止基本方針」を定め、「学校いじめ対策委員会」を設置しました。各学校は教育委員会と連携して「未然防止」、「早期発見」、「早期対応」、「重大事態への対処」の4つの段階に応じて、いじめ防止等に向けた効果的な対策を講じます。行政と学校・地域・家庭・そのほかの関係者が連携を図り「オール東村山」でいじめの根絶に向け、児童・生徒の人権意識を育むことができる仕組みづくりを行っていきます。

平成26年市議会9月定例会 市長所信表明(要旨)

企画政策課

8月29日から開かれている市議会9月定例会の初日に行われた、渡部尚市長の所信表明の概要です。全文は市ホームページの「市長のページ」から、動画は「市議会録画配信」でご覧ください。

はじめに

平成26年市議会9月定例会の所信表明に先立ち、職員の事務の不公正処理について、お詫びかたがたご報告を申し上げます。誠に遺憾なことです。このたび、公民館使用料の調定漏れが判明しました。平成26年3月分中央公民館ホール等使用料138万8千円が平成25年度歳入として計上することができなかったものです。当該現金については金額的なずれはなく、過年度分として平成26年度歳入にて調定処理しました。今後は、再発防止に向け職員に対し法令遵守の徹底およびチェック体制の徹底強化に努め、さらに健全かつ適正・的確な事務処理環境を構築するよう努めてまいります。

この夏は、台風や集中豪雨による甚大な被害が西日本を中心に各地で頻発しました。これらの災害によってお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の誠をささげるとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

経営・政策分野

平成25年度決算概要

平成25年度決算については全会計、実質収支を黒字で迎えることができました。

一般会計決算額については、歳入が513億7千76万1千円、歳出が497億640万7千円となり、過去最大であった平成24年度の決算規模を歳入は上回り、歳出は若干、下回りました。歳入歳出の差し引きである形式収支は16億6千435万4千円で、これから翌年度へ繰り越すべき財源1億822万2千円を差し引いた実質収支額は15億5千613万2千円となり、このうち10億円を財政調整基金へ積み立て、残りの5億5千613万2千円を翌年度繰越金としました。

また平成25年度末における一般会計の地方債残高は411億4千824万4千円となり、下水道事業特別会計の212億5千588万3千円とあわせて、市債残高は前年度より7億3千811万7千円の減となりました。

国民健康保険事業特別会計決算額は、歳入が171億7千638万2千円、歳出が166億7千887万7千円で、歳入歳出差引額4億9千750万5千円が実質収支額となっています。

後期高齢者医療特別会計決算額は、歳入が30億5千294万円、歳出が29億8千813万3千円で、歳入歳出差引額6千480万7千円が実質収支額となります。この実質収支につきましては、繰越金として、平成26年度の後期高齢者医療特別会計の歳入として計上するものです。

介護保険事業特別会計決算額は、平成24年度から26年度までを計画期間とする第5期介護保険事業計画の2年次目として、決算を迎えることができました。平成25年度介護保険事業特別会計決算額は、歳入が106億7千111万7千円、歳出が100億4千315万6千円で、歳入歳出差引額6億2千796万1千円が実質収支額です。

下水道事業特別会計決算額は、歳入が43億1千178万円、歳出が42億7千762万5千円となり、歳入から歳出を差し引いた実質収支額は、3千415万5千円でした。

市制施行50周年の取り組み

記念事業のメインとなります10月26日の記念式典は、市民スポーツセンターにおいて開催し、子どもから大人まで多くの方々の記憶に残る市制施行50周年を祝うにふさわしい内容となるよう考えているところです。

東村山市第4次総合計画後期基本計画の策定

平成28年度を初年度とする東村山市第4次総合計画後期基本計画の策定を今年度より本格化させており、ワークショップ形式による市民意向を把握する場として、18歳以上40歳未満の方を対象にした「東村山ワカモノ会議 ムラカイ」を9月6日に、18歳以上の方を対象にした「東村山まちづくり会議」を10月4日に開催する予定です。



総務分野

本庁舎耐震補強など改修工事

7月1日から市ホームページや建設業界紙などを通じて参加事業者の公募を開始し、7月14日に参加受付を締め切りました。今後、技術提案を10月中旬まで受け付け、第1次審査、第2次審査を行い、11月末には、実施設計の契約交渉の相手方を選出したいと考えています。

デング熱の感染が確認されています。ご注意ください。 ☎専用相談電話03・5320・4179又は多摩小平保健所042・450・3111